



ヤンゴン

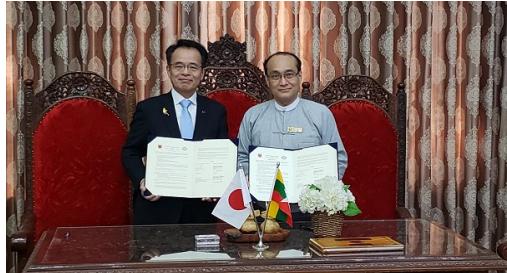
第一医科大学

UNIVERSITY OF MEDICINE 1, YANGON

●学部学生 約2,940人 ●大学院生 約1,334人 ●教職員 約1,046人（令和元年のデータ）

ホームページ <https://um1yangon.edu.mm/en/>

交流協定締結年月日：2019年12月9日 主管学部：医学部



協定調印式の様子



<https://um1alumni.org/>より抜粋

国際交流の特色

1907年に旧ラングーン総合病院付属の政府医学校（Government Medical School）として設立された、ミャンマーで最も古く権威のある医科大学であり、1965年から2018年までに15536名の医学部卒業生と4687名の大学院修了者を輩出している。現在年間約500人の学部学生、約200名の大学院生をそれぞれ受け入れている。なお、学部教育は7年間行われる。ヤンゴン第一医科大学はランマドー（臨床実習中心）、ピイロード、タトンロード（臨床実習前教育中心）の3つのキャンパスを擁しており、Yangon General Hospital, New Yangon General Hospital, Central Women Hospital, Yangon Children Hospitalをはじめとしてヤンゴンにおいて10病院、さらに地域の数か所の病院で臨床教育が実施されている。特にNew Yangon General HospitalはJICAの支援によって開設される等、日本との結びつきが強い。

交流実績（令和4年度～令和6年度）

年度 受入・派遣	R4	R5	R6
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）	0	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	0	0	0



歓談の様子



協定調印後の記念写真（総長Prof. Zaw Wai Soe、副総長Prof. Myint Myint Nyeinらと）

教員からの声

ヤンゴン第一医科大学とは、医学部小児科学への大学院生受入（平成27年10月に研究生として受入、28年4月入学）を契機として、主に医学部を中心として活発な交流が開始されました。平成29年度および30年度医療技術等国際展開推進事業に採択され、新生児黄疸による後遺症を減少させるプロジェクトとして、関連病院であるCentral Women's Hospital（ヤンゴン）の新生児科医師を招聘して香川大学医学部附属病院および四国こどもとおとの医療センターにて研修を行うとともに、本学医学部教員を派遣して指導に当たり（延べ人数、派遣：25名、受け入れ：4名）、大きな成果をあげています。また、JSPS平成30年度研究拠点形成事業「環境問題に対処するトランスピリチュアリティ研究・実践のための国際ネットワーク構築」（愛媛大学、高知大学と共同で実施）に、ヤンゴン第一医科大学が協力大学として参画していることも特筆されます。さらに、2017年度から2019年度さくらサイエンスプランにて若手研修者計7名を招聘し、小児周産期医療や生活習慣病関連分野の研修を実施しています。一方香川大学からは上述のプロジェクトによる医師や大学院生等の派遣に加えて、2018年9月および2019年12月に本学教員が訪問し、交流協定の締結を提案するに至りました。ヤンゴン第一医科大学では、広く生命科学に関わる研究も活発に実施されており、香川大学の複数学部による相互交流や、ヤンゴン第一医科大学のネットワークを活用したアセアン諸国との交流の推進の可能性も期待されます。

しかしながら、令和元年末のコロナ禍に加えて、ミャンマーで勃発した政変によって現地社会の混乱が広がりました。令和2年度～3年度に総務省（MIC）ミャンマー母子健康改善プロジェクトを何とか完遂できましたが、ヤンゴン第一医科大学との交流を実質休止せざるを得ない状況となっています。ミャンマー社会の混乱の収束を見極めたうえで、国際情勢をにらみつつ、徐々に交流再開を図りたいと考えています。